

# ～健口と輝く笑顔のために～ASSOCIATION

# 歯科衛生だより

2021 October vol.65

発行人／吉田 直美  
発 行／公益社団法人 日本歯科衛生士会  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-11-19  
TEL.03(3209)8020 FAX.03(3209)8023  
<https://www.jdha.or.jp/>

## 動物達も歯が命

国立モンゴル医学科学大学 客員教授  
(元岡山大学病院 小児歯科 講師)

岡崎 好秀  
おか さき よし ひで

人相学は、中国3000年の歴史があります。  
さて人相学では、額、目から鼻、口元のそれぞれは、人生の“3つの年代”を表しているとされます。そこで問題です。  
晩年運を表すのは、次のどの部分でしょうか?(図1)

1:額 2:目・鼻 3:口元



図1

人相学では、「額は初年運を表す」としています。“おでこの広い子どもは、将来賢くなる”といいます。次に、目から鼻は中年運を表します。これは人生において一番仕事ができるときなので、目が輝いているのでしょう。一方、口元は、晩年運を表すのです。年をとっても噛める歯があれば、老いてますます意气盛ん…ということなのです。従って正解は3:口元です。硬い食べ物しかなかった古代人にとっては、まさに“歯が命”であったのでしょう。

もちろん現在では、歯科医院での定期健診で噛める歯を維持できれば、晩年運はOKといえるでしょうが…。

さて動物の世界でも“歯を失うと命にかかわる”といわれます。歯科医師の立場からも、これは本当なのか? 自分の目で確かめたいと思っていました。

数年前、アフリカの大草原をサファリカーで走っていたら、大きな骨が落ちていました(図2,3,4)。



図2



図3



図4

車を降りてよく見ると、どうやらアフリカゾウの下顎の骨です。ゾウは大きな歯が有名ですが、臼歯は上下・左右に1本ずつ計4本生えています。大きさは、大人の靴ぐらいで、噛み合わせは凸凹しており、まるで洗濯板のようです。これで硬い木の枝もバリバリ砕きます(図5)。



図5

しかも、顎の骨に比べて臼歯が大きく、1本ずつしか生える場所がありません。そのためか臼歯は乳歯を含め6回生えます。一つの歯がだいたい10年使えるので、寿命は約60年です。しかも生え変わりは、ヒトと違い奥の方から歯が生えます(水平交換)。そして前の歯が押されて、ポロッと抜け落ちます(図6)。乳歯が抜けたら下から永久歯が生える(垂直交換)ヒトとは大違います。



図6

さてアフリカで見つけた臼歯(図7)と、正常な臼歯(図5)を見比べてください。アフリカで見つけたゾウの臼歯には、凸凹がありません。最後に生えた臼歯がすり減ってしまっているのです。同行したガイドが“このゾウは、最後の歯がダメになつたので死にました。”と言いました。まさに、このゾウは天寿を全うしたことがわかります。

さて現在、日本人の平均寿命は男性約81.64歳・女性は約87.74歳(2020年)と、65歳以上人口が、全国民の28%



図7

を超える超高齢社会となっています。しかし、人間の社会だけでなく、動物園の動物達も高齢化が進んでいます。

これは某動物園のベンガルトラ。人間の年齢になおすと100歳を超えてますが元気です(図8)。



図8

こうして元気で長生きできる背景には、食べ物や飼育環境の改善など、現場の方々のたゆまぬ努力があるのでしょう。しかし、一方で獣医師によると、かつて見られなかった病が増えているそうです。その一つが、歯に関するものです。顎骨の炎症や歯を失うことは、寿命に影響します。そこで動物を長生きさせるために、大型の肉食獣など全身麻酔で定期健康診断を行う時、歯周病予防のため歯石の除去などを行っています(図9, 10)。

さて動物園では、昨日まで元気であった動物が、翌朝には死んでいることがあります。そもそも野生動物は、どれだけ体調が悪くても、他の動物に気づかれないようにしています。なぜなら、気づかれると殺されます。例えば、ライオンは、弱ったシマウマから襲います。当然、動物園の動物も同じ習性を持っています。きっと亡くなつた動物は、最後まで我慢して息

絶えたのでしょうか。すると獣医師は、もっと早く体調が悪かったことに気がつけば、助けられたのではないかと考えます。

では、体調の悪さは、どこを見ればわかるのでしょうか？それは“食欲”です。そもそも、自然界には食物が少ないので、食欲がなければかなり体調が悪いはずです。では、食欲がなければ、まずどこを見るのでしょうか？そこでまず“口の中”的状態を見ます。



協力：神戸市立王子動物園

図9



協力：神戸市立王子動物園

図10

さて、これも動物園の高齢のカバですが、数年前の秋、食欲がなくなりました(図11)。口の中を見ると、下顎の歯グギが歯周病で腫れています。



協力：神戸市立王子動物園

図11

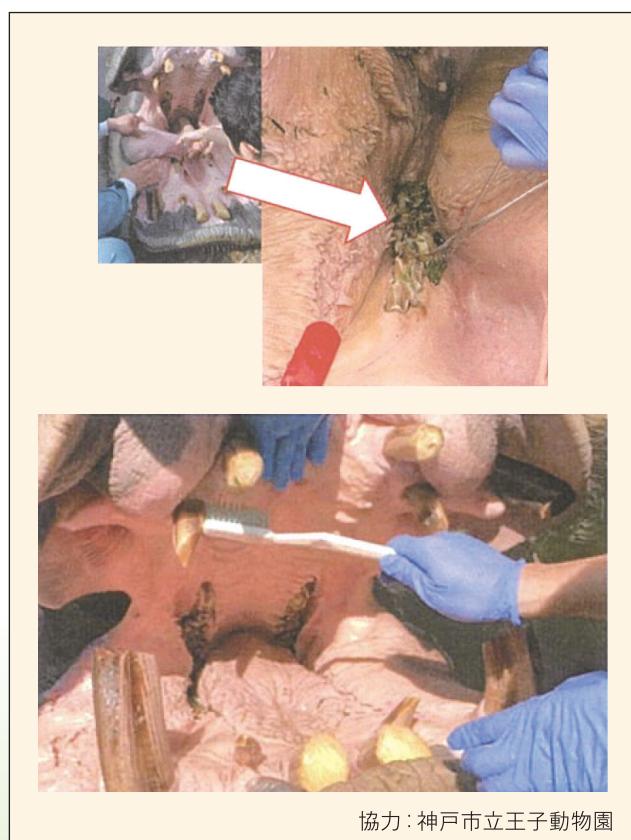


協力：神戸市立王子動物園

図12

しかも赤くなっている部分があります(図12)。どうやら、噛むと上の歯が当たって痛むようです。そこで獣医師は、安全に気をつけながら金属製のヤスリで歯を削りました。カバは、痛みがとれ食欲が出て元気になりました。

しかし、歯周病のため臼歯と臼歯の間に草がたくさん詰まっています。これを取り除かないと、また悪くなります。そこで獣医師と飼育係は、毎日大型のピンセットで草を取り除き、歯ブラシで歯をみがいています(図13, 14)。



協力：神戸市立王子動物園

図13, 14

おかげでこのカバは、現在も元気で大きな口を開け、子ども達を楽しませています。

やはり動物の世界でも、“歯が命”なのです。